

企業ニュース 東海旅客鉄道

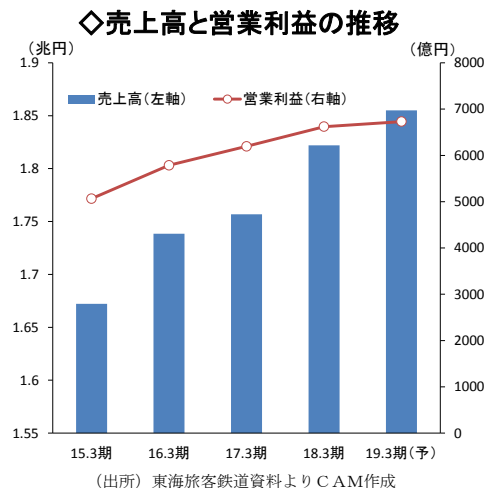
(東証1部：9022) <http://jr-central.co.jp/>

作成者：荒木晶子

東海道新幹線が収益の柱

1987年、国鉄改革により設立。東京、名古屋、大阪を結ぶ東海道新幹線と、名古屋や静岡を中心とした在来線輸送を担うとともに、鉄道事業との相乗効果が期待できる流通や不動産などの関連事業を展開している。19.3期・第3四半期累計(4-12月)の売上高構成比は、運輸業78.2%、流通業13.2%、不動産業2.5%、その他6.1%。

2027年、品川～名古屋においてリニア中央新幹線の開業を予定、その後に品川～大阪の全線開業を計画している。19.3期の設備投資は、年間で2,500億円を計画している。上期実績は665億円ではあるが、下期偏重の計画であるため、おおむね計画線で推移した模様。引き続き建設状況の進捗や費用の増減が注目されよう。



堅調な新幹線需要による計画上振れに期待

19.3期・第3四半期累計(4-12月)の連結業績は、売上高が1兆4,077億円、前年同期比2%増、営業利益が5,976億円、同6%増。通期計画に対する営業利益の進捗率は89%であり、計画を若干上振れて推移している模様。運輸収入は1兆620億円、同2.7%増。ビジネス、観光ともに新幹線の利用が増加した。費用面では、ネット予約比率の上昇によるJR他社への窓口販売手数料の減少や、減価償却費の減少などが寄与した。

19.3期の通期会社計画は、売上高が1兆8,550億円、前期比2%増、営業利益が6,730億円、同2%増。第4四半期(1-3月)は運輸業の修繕費負担が集中していることなどを要因に、計画を据え置いた。下期の運輸収入は前年同期比0.5%増を計画しているが、第3四半期(10-12月)は同3.6%増、2019年1月1日～24日までの新幹線の断面輸送量(特定区間における輸送量)は前年同月比3%増と順調に伸びている。計画は保守的な印象であり、上振れが期待できよう。

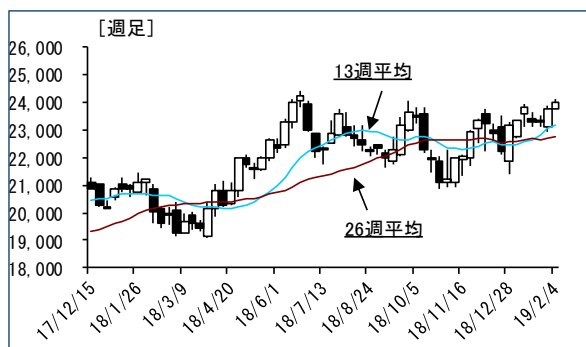
【株価動向・投資判断】

新幹線の利用者増を背景とした運輸収入の堅調な推移が好感されている。主力事業の収入増や業務費用のコントロールなどにより、利益成長が期待できよう。

<9022 JR東海 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.3	1,756,980 (1)	619,564 (7)	563,973 (10)	392,913 (16)	1,996.5	135.00
18.3	1,822,039 (4)	662,023 (7)	583,569 (3)	395,502 (1)	2,015.5	140.00
19.3 予	1,855,000 (2)	673,000 (2)	594,000 (2)	411,000 (4)	2,096.5	140.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)	
株価(2019/2/4)	23,980 円
昨年来高値(高値日)	24,390 円(18/6/21)
同 安値(安値日)	19,105 円(18/3/26)
予想 P E R (19.3 予)	11.4 倍
1株株主資本(PBR算出用)	17,324.8 円
P B R	1.38 倍
予想配当利回り	0.58 %
(1株当たり配当金140.00円)	
R O E (18.3)	13.8 %
発行済み株式数	20,600 万株